



説教要旨 「神さまからの招待状」

ルカによる福音書 14章 15～24節



ある人が盛大な宴会を催そうとして大勢の人を招待していました。そして準備が整ったので僕を送って、「もう用意ができましたから、おいでください」(17節)と伝えたのです。ところが、その招待を受けていた人々は口々に断り始めたのです。「畑を買ったので、見に行かねばなりません」(18節)「牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです」(19節)「妻を迎えたばかりなので、行くことができません」(20節)と、理由をつけて招待を辞退するのです。この人たちは、この家の主人の招きよりも、自分の都合や事情を優先したのです。この主人からの招待を二の次のこととしてそれを断ったのです。断られた主人は怒って僕に「急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい」(21節)と命じました。僕はそのようにして人々を宴会へと連れて来ましたが、まだ空席があります。主人はさらに「通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ」(23節)と言って、人々を“無理にでも”集めて自分の宴席をいっぱいにしよと命じた。というたとえ話をイエス様はこの箇所ですら語られました。

「貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人」は、ユダヤ教社会から疎外された人たちであり、イエス様はまさにこういう人たちのところに行って、彼らに神の国の宴への招きを告げ知らされたのです。それでもまだ宴には空席があるために、わたしたちまでもがその宴に招かれることになったのです。本来招かれるはずのないわたしたちは、ただ席がまだ余っているから、ただそれだけのことで招かれているに過ぎないのです。自分は招かれて当然と思いがあってはならないのです。神様の宴を無理にでもいっぱいにするために、招かれるはずもないわたしたちは招かれたのです。

神様の宴の席を無理にでもいっぱいにするために主イエス・キリストは遣わされ、十字架というとんでもない方法で、わたしたちを招いてくださっているのです。



(2019・10・13 説教者：稲垣真実)